

## 八ツ場ダム中止と治水代替案 4

富士常葉大学大学院環境防災研究科客員教授(風土工学研究所副所長) 竹林征三  
群馬県 東部県民局長 重田佳伸

### 三つの代替案

#### (4) 想定される治水代替案①

（堤防完全補修）

利根川の堤防は高い。もし、右岸が破壊すれば東京は壊滅的打撃を受ける。05年にハリケーン・カトリックに襲われたニューオーリンズはいまだに完全復旧していない。多くの人がか街を捨てたままである。すべてが集中している東京の被災は全国に大きな影響を与えて長期にわたる影響を与えるだろう。

#### (5) 想定される治水代替案②

（流域全体での総合的治水対策）

行政目標としていつたん掲げた基本高水流量の引き下げは、首都圏住民の不安を招く。従って、基本高水流量は毎秒2万2000立方メートル(200年に1度の最大掘削量)、森林整備効果緑のダム効果や上流域での計画的氾濫効果などを定量的に評価し、2万2000立方メートル(流域全体での対策)→新計画高水流量のよくなる新たな考え方が提案される可能性がある。

#### (6) 想定される治水代替案③

（ハード中心の治水対策）

ハード中心の治水からの脱却を目指す考え方で定着しているものの、定量化が難しく、今までの治水計画には組み込まれることは少なかった。

#### (7) 想定される治水代替案④

（基本高水流量の引き下げと避難システム充実）

首都圏へ集中する資産や人口を守るため、治水安全度の目標を200年に1度程度程度まで高め、基本高水流量を毎秒2万2000立方メートルに引き上げたことからも多くのダムが必要になった。一方、人口減少が現実のものとなったが国の公共投資余力は減少せざるを得ない。

それならば利根川治水安全度を200年に1度程度に引き上げ、基本高水流量をカスリーン台風実績並みの毎秒1万7000立方メートルに縮小改訂することも考えられる。これは治水の目標が高

く可成り高い意見に込めることにもなる。カスリーン台風を越える方式の洪水に対しては避難情報の適切な提供やハザードマップの充実などのソフト対策で凌ぐということになる。なお、この案でもカスリーン台風並みの洪水(毎秒1万7000立方メートル)が発生した場合、ダムによる低減分(毎秒3000立方メートル)が、いまだに達成されていないので、破壊の危険性が高いことについての十分な周知と合意が欠かせない。

◆浸透性舗装や各戸貯留により流出自体を抑制する。  
◆遊水地開発に当たっては調整池などの流出抑制策を強化する。  
◆森林の良好管理により保水効果を高める(いわゆる緑のダム)。(AMU)

# 日刊建設工業新聞

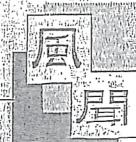
#### 太郎の意味は「恐」

○「(日本三大河川の)利根川を、妙筆を三つの大さな山『板東太郎』と言った。この太郎を単に人の名前で呼ぶのではなく、昔から「冬にはとんど」もともとの、空の風、夏には上昇気流が生まれ、集



中野雨の被言を起して「た」と解説した。会ハツ場ダム対策特

○「正しく『板東太郎』の意味で、江戸時代には『太郎』に水防団の活躍を抑えられている。もっと評価されるべきだと指摘。堤防を守る水防活動がいかにも重要であることも訴えた。



とは恐ろしいものを表す意味も持つ言葉だった」と説明。利根川の